

水平部用・壁面用

含浸材の施工前と施工後、各3カ所に試験器を貼付け、注水(水道水)し透水量を計測します。施工前と施工後と比較するだけの簡単な方法です。施工前と施工後は同一箇所です試験をお願いします。

- パイプ部分に目盛があり計測が容易です。
- 水漏れがしにくい構造です。
- 水を注入する際、試験器内部に空気が残りにくい構造です。
- 器具を取外した跡が残りにくくなっています。
- 冬期間は外気温により接着剤の硬化が遅くなるため、採暖養生が必要です。
- 器具の取付け後、注水した水が凍ると爆裂する可能性があります。
- 繰り返し使用しますと器具の変形により、器具取り付け後の漏水の可能性が高くなり、正確

な計測が難しくなります。器具は使い捨てをお願いします。

- 測定期間は1週間を推奨していますが、3日以上以上の測定期間であれば問題ありません。
- コンクリートの透水量は同時打設の場合であっても測定場所によって数値が大きく変動することがあります。また、けい酸塩系表面含浸材を施工した時の透水抑制率は、元のコンクリートの透水量によって変動します。従いまして性能確認の絶対的な数値はございません。
- 性能確認試験の報告書例は弊社HPを参照してください。

施工要領 (弊社HPに動画を用意しております)

工程 1

計測箇所選定・清掃

- 接着面が乾燥していることを確認してください。(雨天の場合は施工をおやめください)
- 試験器を接着する箇所を選定し、周辺の汚れをブラッシングにより清掃、ウエス等で拭き取ります。
※選定する際、欠陥箇所(ひび割れ、あばた、骨材露出)のない表面を選定してください。

工程 2

剥離剤塗布

(試験終了後、器材を剥がしやすくします)

- 型紙(製品に付属しています)を使用し接着剤が付着する面に下地処理材(剥離剤)を塗布します。
※推奨剥離剤:はくりプライマー(コニシボンD)

工程 3

接着剤を試験器に塗布、試験器接着

- 試験器のつば部分に接着剤を適量塗布し、剥離剤が乾燥していることを確認してから試験器を接着します。(1~2分程度押さえつける)
※推奨接着剤:はくりシールONE(コニシボンD)
※接着剤は2mm弱の厚さで均等に塗ってください。接着する面には段差がついています。
※接着剤が試験器の穴から溢れだすことを確認し、均一に接着するようしっかりと押さえつけてください。
- 接着剤が内側にはみ出さないようにしてください。

工程 4

注水・試験開始

- 接着剤が固化してから注水を開始します。
- 漏水がないか確認してください。漏水している場合は接着不良により試験器落下の可能性があるので、別の試験箇所です再度接着を行うか、接着剤を除去してから同一箇所接着してください。
- スポイトで目盛を微調整してください。
- 注水口にパラフィルムまたはラップ等でキャップをしてください。

工程 5

測定

- 器具貼付け1週間後に透水量を測定します。(測定中に透水量が多い場合には追加で注水し、透水量に合算してください。)

工程 6

試験終了

- 試験終了後、接着面にスクレーパー等をさし入れ、ゆっくりと剥がしてください。
- 接着剤をきれいに除去し、ブラシで水洗い洗浄してください。
※水平部用も同様の手順となります。

